

報 告

2015 IPC クロスカントリースキーワールドカップ旭川大会のスタッフとして

カムイ大雪バリアフリースターセンター 車いす紅蓮隊 五十嵐 真幸

2005年頃から旭川の冬の新しい取り組みとして始まった「AWC 旭川ウィンタークラシック」を機に、障がい当事者が様々な企画やイベントなどを一緒に実践するバリアフリーをテーマにした旭川の冬のユニバーサルスポーツを支援する取り組みが、年々進化を遂げてきました。

2008年には世界のトップアスリートが参戦したアイススレッジホッケー in 旭川が開催され、休憩日には海外選手が旭山動物園を楽しむ「パラスポーツ観光」へと発展しています。このようなパラスポーツの合宿や大会の開催で国際交流とバリアフリーなまちづくりを進めてきた旭川だからこそ、カムイ大雪バリアフリースターセンターや高等養護学校、福祉施設等の障がい当事者たちが前面に出て運営スタッフとして参加する IPC ワールドカップ旭川大会になりました。

旭川大会の開催が決定してから約2年、地域の受け入れ体制づくり、そして、開催近くには海外選手の小学校の訪問計画や、応援体制づくりなどに対応してきました。

また、今回の IPC ワールドカップ旭川大会で贈られた旭川大会オリジナルメダル制作を、地元の北海道雨竜（うりゅう）高等養護学校と美深（びふか）高等養護学校に依頼し、メダル本体は陶器で制作してもらい、ディスプレイ用の盾は北海道産ナラ材で触り心地にこだわった物を制作してもらいました。そして、地元の福祉施設に協力してもらい和服をリフォームした収納袋はメダルを手にした選手が「高校生の手づくりなんて、とってもスペシャル。今までもらったなか

で一番素敵なメダル。」と感激してもらえました。

地元の市民や高校、大学生にも通訳で協力頂き、コミュニケーションをとれる環境をつくりながら、大会期間中にはウエルカムパーティーやさよならパーティー、海外選手の小中学校訪問、生徒の会場応援、世界の選手たちとのミニ研修会開催等々、お互いの心に残る盛りだくさんの国際交流が手づくりで展開されました。

準備のために早入りした大会役員方を旭川冬まつりに案内し、義足の選手方と一緒に会場をゆったりと堪能してもらいました。また、大会中の休息日を利用した旭山動物園巡りや買い物ツアーも選手たちに旭川の思い出を残してくれたものと思います。さらに大会終了後には、ゆっくりと旭川の食と観光を楽しまれ、空港のお見送りまで一緒にさせてもらいました。

こんな関係から FaceBook の友達として海外の仲間たちとも情報交換がはじまりました。

このような国際大会の運営で経験した実績やノウハウは、とても大きな財産です。今後もスポーツ合宿や大会の誘致や開催を含むパラスポーツ観光にこの経験を生かし、市民にパラスポーツに対するポジティブな見方や考え方をさらに浸透させ、誰にもやさしいまちづくりが地域一体で形成される事を目標に、こうした挑戦を継続的に進められる環境を作り上げながら、平昌 2018 冬季オリパラ、2020 年東京オリパラの事前合宿候補地として内外に広くアピールしながら、受け入れ態勢の準備をバリアフリーの概念でももてなが出来る様、地域を上げて取り組むことにします。

【スタッフの声から】

◎ 旭川の雪質の良さや会場と市街地のアクセスの良

カムイ大雪バリアフリースターセンター

車いす紅蓮隊

〒078-8368 北海道旭川市東旭川町旭正 315-2

さが選手やスタッフに評価されていた。

- ◎ 障がい者スポーツの認知度を高めたいと主張している選手・スタッフが多くいた。
- ◎ もっと英語を話せるスタッフがいたら良かったと思った。
- ◎ 障がいの有無に関わらず旭川は行きやすいと思ってもらえるような情報発信をしていきたい。

・・・等、スタッフにも良い経験になりました。

◆カムイ大雪バリアフリー研究所のHPはこちら

<http://www.kamui-daisetsu.org/>

◆2015IPC クロスカントリースキー W 杯旭川大会応援隊

フェイスブックページはこちら

<https://www.facebook.com/2015IPC.ASAHIKAWA>



写真 1



写真 2



写真 3